

0 / 『いのちの戦場』

白い布を纏った人間たちが並んでいる。
みな口々に、何かを喋っている。

ルミ はじめまして！こちらの次元に配属になりました、ルミ、と申します。みなさまの
快適な生活と、希望にあふれた未来をお手伝いするために、あの太陽の名において、
世界の下僕となることを誓います！
タ・トレスティーナ！ペドロター、トロトヤマンナトラ、ラル、ハトナ。ウテイ
ヤ、ユマホムナ、キトリーナバヤ、フツナバーヤチート、サス、ラテルソーナ、トロ
ゲマーナ、ヤ、トリトナー！
ベトライスク！ジュナ、ワルドン、ペッドパッド、スズ、ナンバル。トントフナ、
リラナワート、ラバト、アダストラナバナ、ジャルドヘルナ、ペナラ、ラナサラト
ランベレ、ワルデラス、マエフ、ラカトニッチ！
インハムダー！オイナー・ハルハンエー、エーイソナ、セラ、ハムナ。ニユムナ
ー、エ、トムナー、ヤントヤクル、メラトムカ、レラトキダ、ウエツチウエイホン、
ダハルハナ、エダエー・メツイー、ウリエレダー！
アーニヤハバマ！カナトラス、マンナエイト、バートルー、カイ、ニーミヤトー。
アサワ、トートリノス、パントミヤーナキヤー、ハパトート、メ、ナナワルト、カ
ンナトール、ハナ、トースナ、レタナートラ！
アントム！ヴァトナチカ、ホントナ、ジュデット、トト、ウエイ。ウンナ、ナナト
ナ、ハースナキース、ポット、ユース、オーミットル、クワト、デット、スマー、
ヴァットベー、キンナ、ソナト！

リン

メステイローサ！キヤスク、ペーナヒンツ、ペイネ、ハットムーア、リン、キヤン
ス。テイットリルリーナ、ゲリントース、バリアント、キユース、フィット、アド
イ、カンケット、ペナエッツ、ジュダッテイ、テラ、キヤツカ！

誓います！

トリトナー！

ラカトニツチ！

ウリエレダー！

レタナートラ！

ソナト！

キヤツカ！

ルミ
スズ
セラ
カイ
トリ
ント

青い明かり。

泡の音。

神々が棲む地。

舞台の脇に、みながひざまづく。

舞台中央、黒い画面に、色とりどりの淡い光が生まれてはきえてゆく。

光はぼこぼこ生まれてきて、やがて大きな光に。

大きな光に、向かってゆく者たち。

ある者が、光にたどりつく。

倅せ。

そして、彼らが気づかないのは、死体の山。

A B F E 全 D C G F C D E B A
員

舞台、ゆっくりと暗くなる。
全員が立ち上がり、突然、光。
全員、白い布を脱ぎ捨てる。

1 / 『たまごのくに』

白い場所。白い子どもたち。

生まれる前の場所。

生まれる前の、たまごのくに。

おーい！

おーい！かみさまあーっ！

太陽が、昇るよおーっ！

月が、歌い始めるよーっ！

花が恋をはじめて

土が寝返りをうったよお！

まだ、足りないのかな。

まだまだまだ、足りないのかな。

かみさまあーっ！

か・み・さ・まあーっ！

ねえ、ここにいるよ！

ここで、待ってるよ！

もうずっと、長いこと。

さかなだ！

見え始めるのは、急速に躍動を始める、世界だ。

そこにあつたのは膨大な熱量でした。

電気だったかもしれない、

熱だったかもしれない。

光だったかもしれない。何もなかった私たちの次元に、それは突如として吹き出し

た！

暗闇の中のロケット花火のように。

飛び出した火の粉は燃え移り、夏祭り、ナイアガラの滝のように

光の

洪水！

ものすごい光と、それが飛び散る様子が、三人には見えている。
それはやがて天になる。

三人

星だ……！

海から生まれました。空は赤黒くて、時には黒い雨も降りました。

いつしか仲間を作り、一緒に行動し……ある日、共に歩むことを誓い合いました。

淋しかったから。

やがて信じることと裏切ることを学びました。

あるものは牙を持ち

E D A B C

A D C B G F E D

D F C B A G B D C E A C F G D A B F G

あるものは殻を持ち

追う者

追われる者

去る者

残る者

生きる者

滅びる者

系統樹は立ち止まることを忘れたかのように………

芽生えを迎えた胞子が、踊るように天を刺して、伸びて行くのが見えました。

海から川へ、川から陸へ上がってゆく魚たちを、シダの森が見つけています。

魚は小さなトカゲになり、小さなトカゲはやがておおきくなりました。

おおきなトカゲは地上を覆い尽くし。

森は食い荒らされ、減って行きました。

ある日。

あっけなく彼らは逝きました。

それはきつと、あなたが覚えていない日。

ボール遊びの日、コントロールが悪かったあの一発。

巨大な隕石は海に激突しました。海水と泥が巻き上げられ、辺り一面は暗黒となり

ました。

長い冬は明けることなく。太陽が再び光を投げかけるまで、わたしたちは眠り続け

ました。

A C D A E F B D F C G E A G C F D B A E

冬眠。いつしか光が射し、再び加速するいのち。

おくはくよう。
おはよ。
おはよう。
おはよう！
おはよう！
おはよう、おはよう！
おはよう！
おはよう！
冬眠から冷めるまでの長い長い冬を抜けて、ちいさなネズミはちいさなサルへ
ちいさなサルは群を成し
守り、争い
いつしか家族を愛するようになり
いつしか孤独をおそれるようになり
強くなりたい、強く在りたい、
誰のため
息子のために
娘のために
妻のために
家族のために
仲間のために

A

くそおおおっ！

A、B、C、D以外、冷たく背を向ける。
四人、黒曜石を削る。

A D B C

ちくしょう、ちくしょう、ちくしょう！
死んでたまるか
死んでたまるか
死んでたまるか
死んで、たまるもんか

四人

やがて矢じりが出来上がり、それを見つめている。と、四人に緊張が走る。
敵。立てるか。いや、立てない。立ちたい。立たなければ。
はじめての。一步。四人、向き直り。

歩けたよ！ねえ、歩けたよ！

答えはない。

B A

太陽が、昇るよーっ！
月が、歌い始めるよーっ！

静寂。四人、置き去りにされてきた淋しさを強さに変えて。

四人

かみさまああああーっ！

激しい音楽。

背後には突然、RPGの名前設定画面が。

いのちが、脈動をはじめる。

名前設定、「あなたの名前はなんですか？」アイウエオ表。

と、女性のシルエット。

そして、男性のシルエット。

ふたりのシルエット。しあわせなふたり。

それが鋭く変形し、これから母になる女性のシルエットへ。

突然画面、砂嵐に。そして、消える。

紫、青そしてピンクの明かり。

激しさと希望と、ある種の凶暴さをもって、

いのちは飛び立ってゆく。(ダンス)

2 / 『俺。』

タク

あ、もしもし。うん。分かった。今から行く。…そっちが悪いんだろ。うん。分かった。じゃあ。

セラ、クッションを出してくる。あわただしそうにしている。
タク、チャイムをおす。そして、ノック。

はいはい。

(部屋に入る)

片づいてないって言ったのに。

んなことはどうでもいいから。

あ、そ。ねえ、情報処理の課題やった？

あ、やってねえ。

明後日までだよ。

わかった。

ふたり、奥の部屋に消えてゆく。

3 / 『うまれたいのち』
白い子供たちが、目覚め始めた。

みくんくなく？

なああにいく？だあれ？

誰か、いるの？

声がある。

となりに、誰かいる！

うわ、なんだ？これ。誰だ？

ト
ル
ミ
リ
ン
カ
イ
ル
ミ
カ
イ

セ
ラ
タ
ク
セ
ラ
タ
ク
セ
ラ
タ
ク

ルミ
リン
ルト
カイ
ト
カイ
リン
カイ
ルト
ルト
ルミ
リン
ルミ

こ：こんにちは！
あなたは、だれ？
あたし：あたしは、ルミ！
はじめまして。ルミ。
ここは、どこだ？
その前に、あなたは、だあれ？
カイ。
ぼくは、トトだよ。
きみは？
リン、っていうの。
じゃあ、みんなで、はじめまして。
はじめまして。

ト
リン
カイ
ト
ルミ
リン
カイ
四人

大きな声がきこえる。
今あたしの足さわったの誰！？
うるさいなあ。
ここ、どこ？
あなたは、だれ？
どこから、きたの？
この部屋には、ぼくたちしか、
いない！？

がらんどうの部屋。

カイ
トト

：つて、そんなことをしてもしようがなくて！とりあえずここは、どこだ？
それより前に、ぼくたちは、だれ？

悩。

そして。

一瞬、戦慄が走る。急速に、加速するリズム。

リン
カイ

（ポケットにふと手をやる。と、何かに気づく！）…これ！…思い出した。
思い出したって、何を？

ルミ

（ポケットから同じく、小さな紙切れを見つけ）私も、思い出した。

カイ

だから何を？

トト

（自分のポケットから見つけた紙切れを見ながら）かみさまの、メモ。

カイ

だからそれは…（と、見つけ）…思い出した。

トト

そうだよ。ぼくたちは、

ルミ

…天使だ。

振り返る。と、映像。

『君たちに渡したメモは』

『世界でたった一つの重要な情報だ』

『手放してはいけない。』

『君たちは天使である。』

セラ
タク
セラ
タク
セラ
タク

ちよつと、何すんの！
いや別に。
あーやだやだ。お盛んで。
セラ。
タク。：はやくレポート終わらせなさいよ。
へいへーい。

セラ、去る。
そしてまた、もどってくる。

セラ
タク

ねえ。
：。（立ち上がり、奥の部屋へ消え…）

ふたり、ベッドに身を寄せて、眠る。
時計の音。時間がたつ。
セラ、ふと起きて、時計を見ながら、あわただしくメモを書く。

セラ

おやすみ。

セラ去る。

6 / 『暗い部屋』
舞台薄暗く。

タクは一人眠っている。
声が聞こえる。
四人の子供たち。

カイ
リン
ト
ルミ
リン
カイ
四人

だからさあ、丘ってどこだよ。

だからさ、こうやって探してるんじゃないの。

歩くの：疲れたよお。

丘って、どのくらいの大きさなのかな？

：さあ。

でも、俺たちはさ、このメモを届けなきゃいけないんだよ。

『あの丘に捧げるのだ。そして：』

タク、ぱちつと目覚める。暗い場所。
再び、眠る。

ト
ルミ
リン
カイ
ルミ
リン
ト
リン

でもさ、そんなこと言われたって、この部屋にはなんにもないよ。

うん：。なんにもないみたい。

丘がない、ってことは、このメモは：

ただの紙切れになっちゃう。ちくしょう。

私達、天使なのに。

かみさまのお仕事ができない天使なんて：いる意味：

つくろうよ。

え？

ト カイ ト
ル ミ
ト ト
リン
ト ト
カイ
ト ト
ル ミ
リン
カイ
リン
ト ト
カイ
ト ト
リン
ト ト
ル ミ
カイ
ト ト
ル ミ

丘。
はあ？
丘、つくるの？
だって、「あの丘」ないじゃないか。かみさまが僕たちを試してるんだよ。これくらいであきらめる天使なら、いらないうつて。ねえ、リン。そう思わない？
あなたが歩き疲れただけじゃなくて？
ちがうよ！
でも、この世界に勝手に丘をつくるなんて、いいのかなあ。
ぼくたち、天使なんだよ。神様のメモを、届けるんだ。
そうだよ。この世界をよくするために、ねえ、カイ、リン。つくろうよ。丘。
この世界を
よくするために。…うん。分かったよ。
よし、作るか、丘！
どこに作るっか、あたしたちの丘！
ここにしようよ。
こっちのほうが見晴らしがいいよ。
えー？
はい、最初はグー！
じゃんけん：ぽん！
やった、勝った！
じゃあ、こっちでいい？カイも、いい？
いいよ。
じゃあ、土を集めて…あれ？

リン どうしたの？
ルミ あそこ。いりぐちのところに、人がいる。
カイ 人？
ト おいでよ。

タク、声を聞きつける。身を起こし、あたりを見回す。
みんな、一瞬とまどうが、顔を見合わせて迎え入れることを決め、

四人 はいっっておいでよ！

扉が、ゆるむ。
光。
気が付くと、中にいる。

リン こんにちは。
タク :(声も出ない)
カイ こんにちは、初めまして。カイです。
タク あ、ど、どうも:
トト ねえ、どこの人？だあれ？
ルミ 私達より、おつきいね。
トト、だよ。
ルミ あたしは、ルミ。外からきたの？ねえねえ。
リンと言います。:あの、お名前は？

タク
ルミ
リン
タク
リン
タク
リン
タク
四
人

た、タク。
ふうん、タクって言うんだ。

あ、あの、

は、はい、なんでしよう。

もし良かったら、手伝ってくれませんか？私達、ここに丘を作らなきゃいけないんです。

あの、まず、君たちは？

わたしたちは、天使。

天使？

かみさまの仕事をする、天使。

あの丘に捧げるんだ。たった一つのこのメモを。

ピピピピピピピピピピピピピピピピ：

タイマーの音。タク、身をかたくする。

天使たち、ざあつと去る。
部屋。

タク

：バイトだ。（頭をかき）（メモを見て）セラのヤツ：（自分の身体を確かめるよう
な仕草）：なんだか身体が：生あったかいな：。

ふたりの影、タクの背後に現れる。

タクを見送る。

タクの背中に向かって

二人

(声を出さずに) パパ。

タク、一瞬振り返る。
誰もいない。
バイトに出かける。

7 / 『丘の上』

ルミ　ねえ、まだあ？

トト　うん。まだ。

リン　嘘でしょ。もう、ほんと疲れたんだけど。

トト　もうちよつと高くて、もうちよつと丸くないと、丘とは言えないよ。

カイ　そりゃそうかもしれないけどさあ。

トト　じゃんけんで勝ったのは、ぼくだもん。

リン　：トトもちよつとは働いて。

トト　えー。

カイ　えー、じゃねえだろ。

ルミ　でも、最初に比べたら、すつごく丘っぽくなったね。

リン　うん。

ルミ　かみさまも、気に入ってくれるかな。

カイ　まわりこんな穴だらけにして、怒られないかな…。

ルミ　：それは考えちゃダメだよ。カイ。

リ ト カ ル リ ト カ リ ル カ ト リ カ ル リ ト カ リ ル カ ト リ
人 人 ミ ト ミ イン イ ミ イ ト イン イ ミ イ ト イン

ねえ、あのひとさ、
ああ、なんだっけ。あの大きい人。
タク。
タクがどうかしたの？
もう、来ないのかなあ。
そういえば、突然消えちゃったね。
まあ、俺らとは違うみたいだったし。
そっかあ。
あ、いい感じになってきたなってきた。
やっと終わるか：
どれどれ。あ、ほんとだ。丘っぽいね。
どれどれ？
作業終了？
うん。大きすぎでもなく小さすぎでもなく、いい感じ。
タクに見せたいね。
うん、見せたいね。
呼んでみるか？
聞こえないと思うけど。
いいよ、やろうよ。タクだけじゃないよ。かみさまにも、ちゃんと教えなきや。
そうだね。
せーの、
丘が、できたよーっ。
か・み・さ・まーっ！

セラ
タク
セラ
タク
セラ
タク
セラ
タク

子供の夢って縁起いいらしいよ。よかったじゃん。
冗談。

ほんとほんと。夢占いかなんかにかいてあった。あんた子供嫌いだっけ。
嫌いつてか、苦手なんだよ。違うイキモノみたいで。

ま、あわせときやいいのよ。

ふうん。

課題残ってるから、ちよつとやってる。
わかった。

レポートの確認なんぞしつつ、
タク、まどろむ。

9 / 『自然淘汰』
気が付くと、タクのまわりには天使たち。

リン
ルミ
タク
トト
タク
トト
タク
カイ

：ほんとに来た。

まさか、来るとは思わなかったね。

(あくびをして) : あれ?

タク。

トト : だっけ?

うん。

(自分でほったをつねり) : 夢、だよな。(寝ようとする)
たぬき寝入りすんなよ。

タク トト タク タク
タク タク タク

丘に着く。

俺はどうせならもっと違う夢を見る。
無理だよーだ。
：つたく、なんで同じ夢なんだよ：
そうそうタク、丘、できたんだよ。
丘あ：？ああそう。
見にきませんか？
見に、ねえ：。
乗り気じゃなさそう：。
いっしょうけんめい作ったのね：
あああ、泣くな、泣くなつてば。もう。はい、丘つてどっち。
こっち。

タク タク タク
タク タク タク

へえ：
きれいに作ってあるでしょう。
この丘：知ってる気がする。
この丘に捧げたら、仕事は終わる。
そうだね。
仕事？
このメモを、かみさまに届けるんだ。
メモ、って？
持っていないんですか？

タク そんなもの：（ポケットを探ると、黒いカードが。）…あ…。
ルミ タクもやっぱり持ってたんだ。
カイ でも、俺たちのと違う。真っ黒だ。
ルミ でも、タクのだって、きつと大切なものだよ。届けなきゃ。
タク これを、届けるのか？「かみさま」に。
ト そうだよ。この丘に捧げるんだ。
リン じゃあみんな、準備はだいじよぶ？
ルミ タクも、いっしょに行こうよ。あの丘の上まで。
タク こんなものいつのまに…
ルミ タク！
タク あ、ああ…

手を繋ぐ。呼吸をそろえ、丘に登ろうとする。

五人 痛ッ！
カイ なんだ、これ。
スズ （背後から現れて）そこには一人しか登れないよ。
四人 （身を固くする）
スズ そんなに怖がらなくてもいいってば。あたしは…（タクを見つけて）どうして貴男
がここに居るの。
タク え？
スズ （銃をかまえる）
タク うわ。な、何すんだよ。

リン 待って。あなたはだれ？
スズ 悪く思わないで。あなたたちを守るためなの。
トト ぼくたちを？
スズ 異物は消えてもらおうわ。
カイ おい、なんなんだよ。
ルミ やめてよ。
タク （とっさにカードを取り出し、見せる。）
スズ ：パスポート。（銃をおろす）
リン パスポート？
スズ 持つてるならしょうがない。でも、もう、どうにもならないのよ。それは覚えておいて。
タク どうにもならないって何だよ。おい。

スズ 去る。

リン 結局：だれだったんだろ。
カイ ちよつと俺、聞いてくる。（追いかけて去る）
トト 本当かな。
ルミ ：何が？
トト ひとりしか登れない、って。
ルミ そんなの：
リン きつと、ほんとだよ。ルミだって分かってるでしょう。（去ろうとする）
ルミ どこ行くの？

リン
ひとりで考えたいの。(去る)
トト
ぼくも：ちよつと、行くね。
ルミ
あ、トト！
トト
(去る)

タク、ルミを見ていたが、
突然、幕内からのびてきた手に引っ張られる。
一瞬、驚きの表情。すぐ幕内へ。

ルミ
ねえ、タク：

誰もいない。
ルミ、ひとり。
影があらわれる。
そっくりの動作。(身体表現)
ルミ、不安になって去る。

カイ
：やっと追いついた。
スズ
足、早いね。：あらためて、こんにちは。スズよ。
カイ
スズ：
なあに、カイ。
スズ
(少し驚いて) 俺のこと、知ってる：？
カイ
うん。だって

鏡の動作。(身体表現)

スズ カイ 私とあなたは、双子みたいなものだから。
スズ カイ あいつは、なんなんだ？
スズ カイ あいつって？
スズ カイ タク。あの黒いカードは：
スズ カイ 彼は、呼ばれたの。
スズ カイ 誰に。
スズ カイ この世界の、かみさまに。

10 / 『つながり』

セラ タク、タク。
セラ (がぼっと起きあがる)
セラ あんた寝過ぎ。
セラ ああ、悪い。(じつとセラを見つめる)
セラ : どうしたの、ねえちよっと、何？
セラ お前に、よく似てたと思って。
セラ な、何が？
タク うん。お前に、会ったんだ。
セラ はあ？
タク 夢の中で、な。

ルカイ
ルミ

いってくる。
あ、あたしも行く！

スズとラル、残される。

スズ

ラルは、あの子に決めたんだ。

ラル

分かってる。別にあんたが決めるわけじゃないもんね。あの子のことにしたって。

スズ

みんな、あんたのこと見えないんだね。

スズ

聞こえもしないみたいだし。有望なんじゃない？

スズ

そうかもね。

ルミ

トト！

傷ついたらトトを、三人、運び入れる。

ルミ

トト、トト、返事して！

カイ

だめだ、無理にしゃべらせるとよくない。

スズ

別に。どうしてそんなに冷静なのよ。

リン
カイ
スズ
ルミ

まさか、あんたがやったの？
……。
あたしじゃない。ずっとここにいたでしょう？
じゃあ、誰が？誰がこんな……

四人、突然、虚になり、

四人
リン
カイ
ルミ
スズ
ト

『あの丘に捧げるのだ。そして、』（直後、頭痛。そして、気が付く。）
かみさま？
かみさま。
かみさま。
かみさま。
かみさま。
（突然大きくのけぞり）かみさまあああー！

大きくのけぞったトトの前に、
ゆったりとした白い布を纏ったかみさまが現れる。
ダンス。
かみさまに命じられ、殺し合いをする者たち。
死んでゆくふたりを左右対称にうつす鏡。
皆倒れ、息絶え絶えのトトが残される。
かみさま、トトの顎に、優しげに手をかける。
期待。そして、
かみさまの命により、命を絶たれたトト。

トト
（聞こえない声で）…おかあさん…。

一瞬の沈黙。「死」の間。

四人
（堰を切ったように）かみさまああああああつ！

12 / 『昼にうごめく』
場面変わり、セラの部屋。

（お腹あたりを気にし、苦しそうにしている）

おい、だいじよぶか？

ん、おなかいたくて。

そっか、だいじよぶか？

…うん。多分。ねえ。

ん？

さっきのさ、夢で会ったって、何？

お前腹痛いんじゃないか？

だから気を紛らわそうと思ったのかよ。

なんかさ、お前にそっくりなヤツが夢の中に出てきてさ。

それはもう、聞いた。

なんか、誰かが…あれ、…よく覚えてないや。

誰かが、何よ。

セラ
タク
セラ
タク

タ ク
セ ラ
タ ク
セ ラ
タ ク
セ ラ
タ ク
セ ラ
タ ク

何だっけ。
忘れちゃった？
ま、とにかくセラが出てきたことだけは覚えてるけど。
ふーん、…っつ。
おいお前、ほんとだいいじよぶか？
うん。だいいじよぶ。
あつそ。何か飲む？（と、部屋を去ろうとする）
（独り言として）……なんか、やなかんじ。
（聞きつけて）はあ？
ねえさ、抱いててよ。
あ、そ。

タク、セラの頭にいいかげんに手を置く。
そして、去る。
セラ、それを追いかけて、去る。

1 3 / 『死ぬこと』
三人、丘にくずれている。
丘には、土を盛って、トトを、埋めた。
三人、中央に。
スズとラルは、それぞれの背後に、たたずんでいる。

カイ

（埋め終わり）丘、でかくなったな。

ルミ
リン
カイ
ルミ
カイ

さよなら。
トトの持ってたメモは？
これ。
かみさまには、これが読めるのかな？
さあ。

タク、突然現れる。

スズ
タク
スズ
タク
スズ
タク
カイ
タク
リン
タク
ルミ
タク
リン
タク
スズ
タク
スズ

また来たの？
こつちが聞きてえよ。
かみさまが許した以上、私は何も言わないけど。
かみさま：あ、そういえば、セラは？
セラ？
ああ、俺の彼女だけどさ。前、見かけたんだよ。そう、この夢の中で。
その「セラ」って、どんな人ですか？
別に、普通の女だけど。
聞いたことない名前。
そうだそうだ、この夢だ！いやあ、今の今まで、忘れてた。
もしよければ、探しましょうか？その人。
ああ、うん。ああでも、いいや、あんなやつ。
冷たいのね。
別に、夢で会う必要性もないしさ。
冷たいのね。

ルミ、カイ、暗い表情をしている。

タク
リン
スズ
何がだよ。
(気が付き、暗い表情。)
冷たいのね。

スズ、丘を顎で指す。
三人、丘を見ている。

タク
これが、どうかした？ 待った、だんだん思い出ししてきた。…ああ、一人しか登れな
い、って話か。

違う。

違う？ あ、そういえばあの、トトって子は？

(メモを見せる)

いや俺、読めないし。

いないんです。

殺されたの。

…殺された？

スズ、ラル、それぞれの光の背後から、やわらかく手をかけ

五人
(小さな声で) かみさまに。

カイ タク リン ルミ タク カイ タク ルミ
カイ タク ルミ カイ リン ルミ スズ ルミ リン ルミ タク カイ タク ルミ

「かみさま」について聞き出して、何をするつもりだ？
いや、とりあえず、探せばいいのかな、と思つて。この夢の中には、セラもいるみたいだしさ。

かみさまを、探す？

：何か、いけないことだった？

かみさまを捕まえて：

別に何する、つてわけじゃないけど。

さがしてみよう。

ルミ。

だつて、トトみたいにな、まただれかなくなるのは嫌だもん。

行くの？

うん。みんなと同じところ探しても、意味ないよ。きつと。

あたしも行く。

リンは、このへん見守つてなきゃ。

そうだよ。全員ここを離れたら、トトだつて淋しいよ。

お前も、どつか行くのか？

ああ、まずはおとりになんかやしようがない。

二人、クロスするように去ろうとする

二人の影もそれに続き：

二人の影、一瞬、リンにからみつく。

完全な左右対称の、一瞬のストップモーション。

タク まれなければ、死ねないもんね。
リン それは、どういう：
私達は、天使。あの太陽の：

セラの声 タク、タク。

風の音が始まる。

タク やばい、夢から、醒めようとしてる！

リン （一瞬、残念そうな顔をし）

タク ちょっと待ってる、またすぐ寝て、戻ってくるから。おい、聞いてるか？（だんだんと風に流され、離れてゆく）

リン さよなら、パパ。

タク （よく聞き取れず）なんて…！

14 / 『二秒前の夢と二年先の現実』

リン、風に巻かれ、去ってゆく。
セラ、あらわれる。

セラ やっと起きた。すんごい気持ちよさそうに寝てたよ。あんた。

タク 気持ちよさそうに…？

セラ うん。なんの夢見てたか知らないけどさ。

タク …そう。

セラ　あのさ、タク。子供って、好き？
タク　いや、苦手だけど。
セラ　そう。

タク、心ここにあらず。

タク　で、子供がどうしたって？
セラ　ああ、ううん、いとこの子の話でもしようかち思っ
タク　あ、そう。
セラ　…ねえ。
タク　…。
セラ　…ねえ、タク…。
タク　…悪い、ちよつと腹痛いから奥の部屋貸して。
セラ　あ、そう。
タク　ありがとう。
セラ　じゃあ私、ちよつと買い物行って来るから。…薬局、寄るよ。薬、いる？
タク　いない。
セラ　そう。

15 / 『不要な遺伝子』
ルミとラルがいる。
「影」をあらわす身体表現

ルミ トト：トト！：もう、いないんだよね。
ルミ かみさま、って、怖い人なのかなあ。ねえトト、どうだった？怖い人だった？
ルミ ：：あたしも、死んじゃうのかなあ。かみさまー！
ルミ あの丘：あんなに大きかったつけ。

ルミ 去る。
去った方向から入れ違いにカイ出てきて

カイ 「かみさま」って、どんなヤツだ？なあ。（肩に手をかけようとする）
スズ あんまり近づかない方がいい。
カイ どうして。
スズ ねえ、カイ。私のはっきり見える？
カイ そりゃ、見えるけど？
スズ 声もはっきり、聞こえる？
カイ じゃなきゃ会話できてないし。
スズ だったらなおさら、近づかないほうがいい。
カイ だから、どうして。
スズ せっかく生まれても、すぐに死んでしまう。
カイ 生まれても？あ。

ルミ、やってくる。

ルミ あ、カイ！どう、見つかった？

カ
イ
ル
ミ
カ
イ
ル
ミ
カ
イ
ル
ミ
カ
イ
ル
ミ

見ればわかるだろ。
そっか、そうだよねえ。
だいたい、かみさまって、どんな人なんだろ。
なんか：頭にもやがかかっている。あつたかくて。
怖くて。
消す人で
つくるひとで
包むひとで
壊すひと？
なんかよく、わかんないね。

四人去る。
場面変わり、丘のふもと。
リン、ひとりぼっち。

リン

二人とも、まだ帰ってこない：（不安げにあたりを見回し）：タク、タク！

リン

かみさまがゆったりと出てきて、目の前に来る。
一瞬の緊張。そして、運命を悟り。

はじめまして！こちらの次元に配属になりました、リン、と申します。みなさまの
快適な生活と、希望にあふれた未来をお手伝いするために、あの太陽の名において、
世界の下僕となることを誓います！

かみさま、手をゆったりと持ち上げる。その手が振り下ろされれば：

リン
：ねえ、きつと、可愛いだろうなあ。男の子かな、女の子かな。どんな名前だろう？
ねえ今、笑ったよ。嬉しいね。しあわせだね。ずっと、こうしていようよ。タク、
笑っててね。ルミ、カイ、頼んだよ。さよなら。パパ。ママ。

アンサンブル、布で彼女を束縛し、
そして、彼女は崩れ落ちる。

16 / 『からだがおかしい』
セラの部屋。奥の部屋には、タク。

セラ
ただいま。具合だいじよぶ？

タク
今、寝ようと思って集中してるところだから。

セラ
集中したら逆に寝れないんじゃないの？

タク
うるさいな。

セラ
（薬局の袋にためらいがちに手をかけ、やつぱりやめて、しまいこんでしまう。）大
学で課題やってくる。出るとき携帯に電話して。
分かった。

17 / 『バトルロワイアル』
タクが駆け込んでくる。

丘がさらに大きくなり、二人とその影は、丘を見つめている。

死んだのか。

うん。

わからない。帰ってきたら倒れてた。

リン、笑ってたんだよ。びっくりしちやった。

笑ってた？

なんか、眠ってるみたいだったんだ。倒れてたとき。

また、いなくなっちゃった。

：ごめん。

なんでタクが謝るの？

なんか、俺が、一人にしたから、っていうか、いるべきときにいられなくて：

一人にした？

夢からさ、醒めちゃったんだよ。セラのやつが話しかけてきて：

：ほんとに、ごめん。

：かみさま、か。

：かみさまが、タクみたいに優しくかったらいいのね。

優しくないわけじゃないとは思うけど。

その、かみさま、ってさ、かみさまなら、何でも出来るんじゃないのか？例えば死

んだ人を生き返らせる、とか。

あんだ：かみさまは超能力者じゃないのよ。

スズ

タク

スズ

ルミ

カイ

タク

セラ タク セラ タク セラ タク セラ タク セラ タク
セラ タク セラ タク セラ タク セラ タク

タク、いる？

(眠そうに) …なんだ、セラ？

あ、なんだ、まだいたんだ。途中で電話くれた？

いや。

そう、よかった。

セラ。

ちよつと、何？

いや別に。

冷たいねえ。

冷たい？

いや別にいいんだけど。

何が。

やっぱりさ、怖いんだよ。

何が。

ううん、別に平気。おいでよ。

ダンス。アクション。

セラを土台として、タクが動きまわる。

そしてセラの身体をすり抜けて、夢の世界へ。

19 / 『守る』

夢の世界にいた直後、タク、あたりを見渡す。
そしてポケットに入れたリンのメモを、確認する。

ラル、やってくる。

タク このメモ：「形見」ってやつなんだよなあ：

ラル、タクのまわりをひとめぐりし、
ゆっくりと、近づこうとする。
タク、がふと身体を動かすと、触れないようにぱっと引く。

タク ……寒いな。

メモを手に入れようと、繰り返す

タク ……なんだ？黒い霞が見える…。

ルミ、やってくる。

ルミ タク。来てたんだ。

タク ルミ。（あわててメモをしまう）

ルミ ……早く返したほうがいいと思うけど。

タク ……ああ…。

ルミ カづくで奪ったりはしないよ。だってそれ、リンがタクに渡したんでしょ？
タク なんか、手元に置いておきたくてさ。…あれ？（ルミのほうをまじまじと見る）
ルミ ど、どうしたの？

タク
ルミ
タク
タク

後ろに、黒い霞が見える。
黒い、霞？見えないよ、そんなもの。
リンが見たって言ってた影は、あれか？
なんか、あたしの後ろについてるの？
いや、なんでもない。

カイ、やってくる。

カイ
ルミ
カイ
タク
カイ

ああ、タク。ルミ。
どうしたの？
丘が、息をはじめた。
息？
俺には分かる。丘が、息をはじめたんだ。

丘。みな、呼吸をそろえる。

タク
ルミ
カイ
スズ
タク
カイ
タク

なんか、生まれてきそうだな。
何が生まれてくるんだろ。
違うよ。誰が生まれてくるのか、だよ。
二人はあの中でもう、溶けたかもね。
：？
どんな名前になるんだろ。
何か、ここから出てくるのか？

ルミ 天使に、なれるかな。幸せをはこぶ、天使に。
スズ どうやって生きるのかな
カイ どうやって死ぬのかな。
タク …なあ、みんな、ここは、どこだ？

赤い照明。

みな、布をかぶり、跪き、ゆっくりと動く。

アンサンブル（セラ以外）も。

タク

ここ、どこだ、…おい、みんな！カイ、ルミ、スズ！…この、パスポート…この、メモ…。おい、スズ！カイ、ルミ！…セラ！トト、（メモを見て）リン！

ゆらりと、中央に立ち上がる人影。

タク

…セラ？

すぐにゆらりと消えてしまう。

タク

…ここは…。…セラ、お前が、いる気がする…

アンサンブルとタク、全身で丘の呼吸を表現。
そして、呼吸しながら去る。

20 / 『いのち』
タクは眠りこけている。
セラ、タクを見て、自分を見る。
指輪を、おく。
ためらう。またつける。
薬局の袋をあさり：また途中でしまってしまう。

セラ

タク。

不思議そうにお腹に手をあてる。
タクの横に寝転がり、眠る、

21 / 『着床』

みな、丘を見つめながら、呼吸をあわせている。

なんか、だんだん、呼吸が深くなってきたか？

それに、早くなってきた。

何か、くるんだ。

何がくるんだろ。

選ばれるんだよ。きっと。この中から。

そうだね。

さよなら、だね。

ほんとに、それしかないのかよ。

タク
スズ
ルミ
カイ
ルミ
カイ
スズ
タク

白い人影。

カイ　かみさまだ！
タク　セラ！

沈黙。

ルミ　：きこえる。

全員、固まる。

ルミ　かみさまの声が、きこえる！
スズ　やめて、嘘よ。
ルミ　聞こえるの。こつちにおいで、つて。
タク　セラ：お前は。
カイ　ルミ、かみさまは、なんて言ってる？
ルミ　ねえ、トトのメモ、見せて。
カイ　あ、ああ。(取り出し、わたす)
ルミ　あと、リンのメモも。
タク　：どうするんだ？(といいながら、渡す)

ルミ、突然メモをびりびりと破く。

タク　ルミ　タク　ルミ　タク　ルミ　タク　ルミ　スズ　カイ　ルミ　スズ　ルミ　タク　ルミ　スズ　タク　ルミ　タク　ルミ　タク　ルミ

ルミ！何するんだ！
こうしなきゃいけないの。

お前、ほんとに今自分がやったこと、分かっているか？このメモは…
うん。分かるよ。

このメモは、トトと、リン、そのものなのに！
残っているメモは、いちまい。

おい、やめろ！
（立ちふさがり）やめて！

スズ、分かっているんでしよう。
ルミ、お前、人、殺そうとしてるんだぞ。こいつら生きて、生まれてこようとして

： 分かっている。スズ。
殺人者。あんたが死ねばよかったのに！

どっちかしか、生きられないの。
スズ、だめだよ。ルミは、生きようとしてるだけだから。ルミが生きることが、俺

たちが生きることでもあるから。
でも、そしたら、あなたの情報は途絶えてしまう！

しょうがないよ。
セラ、お前、それしかできないのか？なあ、それしか。

タク、兄弟、いる？
ああ、妹が一人。

タクには、言う権利、ないよ。タクだって、殺してきた。

タク どういう意味だよ。
ルミ そうだよ。生まれちゃったら、忘れちゃうもんね。一億人の兄弟のことなんて。
タク 一億人の兄弟？
カイ (黙ってメモを差し出す)
ルミ ありがとう。
スズ やめて！(ルミに向かっていこうとする)

ラル、飛び出して、止める。

ルミ :あれ、なんか、見える。

スズ 見えた？黒い影が。

ルミ 何、これ。

スズ それはあたしと同じ、死に神。

ルミ 死に神？

スズ あんたが生まれたら、一生その影を引きずって生きるんだ。いつ死ぬか分からない、死に神を連れて、歩くんだ。

カイ それでも、生まれなきゃいけないんだ。そのメモ、破っていいよ。

タク おい、一億人の兄弟ってなんだよ、なあ、ルミ！
ルミ (カイのメモを破る)

カイ、がくつと倒れる。

タク
カイ！

ルミ スズ ルミ スズ ルミ タク スズ ルミ

(スズに) : ごめんね。がんばる。

: うん。

行くのか。

うん。

ルミ!

(振り返る)

みんなのことは、心配しないで。あたしがちゃんと、ゆっくり、眠らせてあげるから。

うん。

スズ、カイを連れて去る。
舞台にふたり。

ルミ タク ルミ タク ルミ タク ルミ

(段を上りながら) あたしね、ねえタク、聞いて。あたしね。

ああ。

ずうっと、ずうっと昔の事だけど、覚えてることがあるの。世界が始まったときあたし、海にいたの。ゆらゆらしてて、転がって : 遠くへ行きたいなあ、って思ってしばらくくしたら、ひれが生えて、あたし、泳いでた。

ああ。

なんだか上のほうが明るくて、光が欲しくて、そしたらいつのまにか、ひれが足になって、歩けるようになって走れるようになって : タク、信じる? こんな話。

それは、その : ルミのメモに書いてあること?

うん、たぶん。それでね、草原を走ってた二本の足が手になって、あたし、誰かを

タク
ルミ
タク
ルミ
タク
ルミ
タク

抱きしめた。あんなに人を好きだっと思ったこと、なかったよ。そして：
そして？
そして、おしまい。ねえタク、あたしと一緒に来た兄弟、とつてもたくさんいたはずなんだ。
うん。
でもみんな、死んじゃった。みんな、生まれて来たかったのに。
うん。
ねえ、あたし、がんばるよ。
うん。

ルミ、立ち止まる。
アンサンブルが出てきて、ひざまづく。
生まれる世界に、最初に抱きしめてもらうひとに、挨拶をする。

ルミ

はじめまして！こちらの次元に配属になりました、ルミ、と申します。みなさまの快適な生活と、希望にあふれた未来をお手伝いするために、あの太陽の名において、世界の下僕となることを誓います！

ラル
スズ

タ・トレスティーナ！ペドロター、トロトヤマンナトラ、ラル、ハトナ。ウティ
ヤ、ユマホムナ、キトリーナバヤ、フツナバーヤチート、サス、ラテルソーナ、トロ
ゲマーナ、ヤ、トリトナー！
ベトライスク！ジュナ、ワルドン、ペッドパッド、スズ、ナンバル。トントフナ、
リラナワート、ラバト、アダストラナバナ、ジャルドヘルナ、ペナラ、ラナサラト
ランベレ、ワルデラス、マエフ、ラカトニツチ！

カイ

トト

リン

アーニヤハバマ！カナトラス、マンナエイト、バートルー、カイ、ニミヤトー。
アサワ、トトリノス、パントミヤナキヤ、ハパトート、メ、ナナワルト、カ
ンナトール、ハナ、トースナ、レタナートラ！
アントム！ヴァトナチカ、ホントナ、ジュデット、トト、ウエイ。ウンナ、ナナト
ナ、ハースナキース、ポット、ユース、オーミットル、クワト、デット、スマー、
ヴァットベ、キンナ、ソナト！
メステイローサ！キヤスク、ペーナヒンツ、ペイネ、ハットムーア、リン、キャン
ス。テイットリルリーナ、ゲリントース、バリアント、キユース、フィット、アド
イ、カンケット、ペナエッツ、ジュダッテイ、テラ、キヤツカ！

何言ってるか、わからないよ。

みんな、この世界には生まれて来られなかったから。

リンも？

そう。

トトも、カイも。

そう。

一瞬の間。かみさまが待っている。

あたし、行くね。

ああ。

希望にあふれた未来、届けられなかったらごめんね。迷惑だったらごめんね。天使
になれなかったら、ごめん。

ルミ

タク

タク
ルミ

ああ：薄れてく。
でもあたし、ここにいるから。がんばるから。：お父さん。

アンサンブル、すつくと立つ。

一瞬、暗転。

明るくなると、セラが眠りこけている。

タク、目覚め。

薬局の袋に目がいき、中身をあさる。

検査薬の、箱だ。

タク、眠っているセラのお腹に、耳をあてる。

タク

：：生まれれておいで。生まれれておいで。生まれれておいで。生まれ
ておいで。

舞台、次第に暗くなっていき、

真ん中の白い布の空間だけが明るくなってゆく。

と、少女のシルエットが、天を突き刺すように生まれる。

そして舞台暗くなり、シルエットはかき消える。

スクリーンに文字。

『男の子（おとうさん）、女の子（おかあさん）』
『あなたの名前はなんですか？』